

令和5年度第2回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第2回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和5年11月9日(木) 午後2時から午後3時20分まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所東大会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 鈴木五郎委員、岩本和美委員、及川正幸委員、栃内宏之委員、藤森泰子委員、佐藤定悦委員、小野寺美枝子委員、菊地昌斉委員、河野麻希子委員、村上とも子委員、吉田美和子委員、金森勝利委員、小山亜希子委員、白石理恵委員
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、小野寺愛人まちづくり推進部長、藤倉忠光一関図書館長、佐々木修路一関市博物館次長、八木浩司教育部次長兼学校教育課長、南浦元学校教育課主幹、氏家克典文化財課長、平石剛教育総務課主幹兼社会教育主事(スポーツ振興課長)、伊藤信子いきがづくり課長、佐藤康隆いきがづくり課市民センター係長、森本瞳いきがづくり課主任主事、高橋美穂子いきがづくり課主任

5 説明内容

- (1) 社会教育の必要課題に対する共通取組について
  - ・令和5年度取組状況報告及び令和6年度共通取組(案)について
- (2) 教育委員会における生成AI活用の方向性について
- (3) 地域部活動の状況について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 1名

8 時枝直樹教育長挨拶

私は、先月10月29日より教育長に就いております時枝と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は、小中学校の教員出身で、令和4年の3月末まで市内中学校の校長を2年間務めておりました。ちょうどその時は、コロナ禍でかなり深刻な状況でありましたが、学校では、地域のことを知って次の地域を担っていくために、ボランティア活動を一生懸命取り組んでいたのですが、活動制限や、自粛で活動がなかなかできないため、どうしたらいいだろうと思ったそのときに、学区の市民センターと市民センターで活動するまちづくり協議会に相談して、その頃なかなか厳しいとされていた合唱や、感染症にあまり

影響のない太鼓を演奏するという場を設けていただき、地域の方を呼んで距離を空けて合唱をしたりしまして、様々工夫しながら取り組んでいた生徒たちはすごく充実感を得ております。

その中の生徒が、地域の太鼓指導の方や協議会の方から、なぜこのようなまちづくりや集まりが大切なのかという話を聞いて、自分もそういう指導者になりたいと高等学校に進学しても太鼓を続けたい、一生懸命やって自分もそのときの指導者のようなまちづくりをしていきたいと言っていたということを先日聞きました。非常にいいことだと思いますし、社会教育や地域との関わりというものが生徒の成長にすごく大きいということを、教員を続けている上で実感したところでもあります。いつも本当にありがとうございます。

本日の会議は、社会教育の必要課題に対する共通取組ということで、いきがづくり課から令和5年度のテーマ「家庭における児童生徒のインターネットとの上手な付き合い方について」の取組状況の報告と、令和6年度のテーマとして考えております男女共同参画「誰もが 個性を尊重し能力を認め合う多様性への理解の促進」についてを説明させていただきます。このテーマは、学校・地域・家庭で共通する大きな現代的な課題であります。

市民センターなどで実際に事業展開をしていく上で、参考にしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

また、前回の会議で委員の皆様からぜひ伺いたいと話された「教育委員会における生成A I活用の方向性」と「地域部活動の状況について」の2件について、学校教育課から説明させていただきます。

今の小、中学校では教室のW i - F i環境が整っており、1人1台タブレットの配布や大型電子黒板での提示など、日常の授業の中で常にといいわけではありませんがI C T機器を使って授業の効率を上げたりわかりやすい授業を作っていくことが展開されていますので、この生成A Iの活用でも今後どのようなことができるかと私自身も思っているところです。

地域部活動については、始まったところでもあります。学校統合は一旦落ち着きましたが、児童生徒の減少は今後も進んでいきます。また、全国的に部活動は任意加入であり強制加入ではないので、希望により任意加入で部活動を進めていきますので、確実に部活動に入る生徒は減っていきます。単独の学校ではなかなか成り立たないですし、教職員の勤務時間というのかなり意識していかなければいけないと考えております。地域部活動について、教育委員会としては進めていく方向でありますので、そういう学校での活動などめまぐるしく変化している時代について、ご理解いただければと思っております。

ます。

皆様からたくさんのご意見をいただき、これからの社会教育行政にも少しでも多く反映させられるように取組を進めてまいりたいと思いますので、本日の会議も含め、今後もお力添えをいただきますようお願いいたします。

## 9 説明内容

### (1) 社会教育の必要課題に対する共通取組について

・令和5年度の取組状況報告及び令和6年度共通取組（案）について  
資料No.1に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

### (2) 教育委員会における生成A I活用の方向性について

資料No.2に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 生成A Iについて、まだ決まりがきちんとしていないということだが、既に学校現場でA Iを活用し困っている事例などがあれば教えていただきたい。

事務局 基本的に、教育委員会が把握している部分はない。

委員 参考1の各学校で生成A Iを利用する際のチェックリストについて、読書感想文で同じようなことが出てきたら、最後は自分で判断する必要があると思った。

### (3) 地域部活動の状況について

資料No.3に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 学校部活動ができれば一番いいと思うが、それが休日型・全日型に移行して競技を一生懸命にやってきた方に教えていただけるということは、子ども達にとってはすごくいいと思う。しかし、この地域部活動運営補助金は、全日型だと年間最大10万円、休日型だと最大5万円という形になっているが、この金額で実際に運営できると予想された金額なのか、調べた金額で運営できるとしたものか。また、中学校の先生の中には、もしかすると自分が得意なスポーツを部活動で教えたいとの思いで学校の先生になられた方もいると思うので、その思いも汲み取っていただきたい。資料には、希望したら地域の部活動の指導者として先生方の個人参加は可能と書いてあるので、やれなくはないのかと思う。一関市内には様々なクラブチームが増えたが、地域が少し離れるとクラブチームがなく、やりたい人ができず、また、送迎ができる家庭しかやれない状況である。その中で、できるかできないかの格差が出ていると思う。歩いて行けるところに活動場所がある子ども達はできて、そうでない子ども達はできないという状況がある。そうなるとう完全にこの全日型に移行とはならないと思う。そうなれば、思いが強い先生方を教育委員会で地域部活動に移行しながら地域

にその配属していただけるようだと、地域としてもその地域に住んでいる子ども達が小学校や中学校に上がるときに、引っ越そうという感じにならなくて済み、残された祖父母が寂しくならなくていいのではないかと日々感じている。知り合いには、そういう状況では少し育てにくいということで引っ越された方もいる。地域おこしを頑張ろうと思っている自分には、少し寂しいと思うので、地域部活動の運営方法なども考えていただけると一関市全体が住みやすいまちになるかと思う。検討していただければと思う。

事務局 補助金額について、各部の状況により様々必要額が違ってくるというのはもちろんあると思うので、一概にうまくいくものではないが検討しながらやっているところである。学校部活動が入っている休日型については、学校の部費もある。また、予算的なものとしてはスポーツ少年団登録をして、地域部活動をするが、スポーツ少年団側からの補助金があるなど資料に記載しているお金以外にもある。

保護者負担については、学校部活動でもあるが地域部活動でも保護者負担をいただくことになると思う。

事務局 各地域での活動が想定されて、先生方に指導を受けられるようにという話について、先生方も自分の勤務外のところで入ってもらうのは全く支障がなく、そういうところに情熱を傾けていただけている先生方の力というのも、地域の中の一部になっていけばいいと思っている。ただ一方で、今の小学校1年生が小学校5年生になるわずか5年間の間に7,000千人いる小、中学生の総数が1,000人減る。先ほどの説明で、人口の部分も14年間の中で子ども達の数が半減するようなグラフがあったとおりに、子ども達が少なくなり立ち行かなくなってしまうことを考えると、これからの地域において、一関はかなり広いが、その中にいくつか思いを同じにした部活動集団が生まれていくことを期待しながら進めていかなければ、学校単体での部活動そのものが立ち行かなくなってしまう。資料の2ページ目の右側に令和5年度一関地方中体連主催大会のチーム状況を表したが、括弧付けのものが合同チームという状況になっている。括弧の中は合同チームで、全体の内数という見方をしていただきたい。下から4つ目のソフトボール新人戦では、出場した3チーム全てが合同チームという状況である。取り組んでいきたいという子ども達が、いくつかの学校と混じり、日常的には一緒に練習ができないが休みの日に活動している。それでも伝統あるソフトボールは、当市においてははすごく大きな経験をこれまでできて、全国大会優勝という歴史もあるチームに関しても、このような形でも活動を保障

するという現状である。この先は単体で活動しているチームも、今後は単独での活動がたつらくなってくるので、いただいた意見はもっともだと思う。活動の場所が増えていくためにも、働きかけの方も社会教育含めてどんどん推進していく必要があるというふうに思っている。

事務局 一点補足させていただく。原則、教諭が地域部活動の地域指導者になることについては、これからの課題だが、国や県全体では希望する教諭については地域指導者と教諭の兼務の手続きを取って、その指導者になることを考えている。今までは部活動の延長として、スポーツ少年団や育成会などの親から頼まれて夜間練習に関わっていたが、本当は別のことをやりたいが道義的にやらないとうまくないということでやっていた方は、この地域部活動の兼務はしない。あくまでも本人が自分の競技スポーツをその地域に伝えたいという方は、そういう手続きをすることによって認めていくということになる。

中学校教諭の配置は、各必要な教科の教諭配置を第1優先とするので、そこと部活動の人を結び付けられればいいのだが、なかなかそこが難しいので考えながらということになる。ご理解いただきたいと思う。

委員 ありがとうございます。なかなか大変だと思うが、教育だけではなく子育て支援も含め、市全体の地域づくりができればと思う。

## 10 その他

委員 本日説明を受けた中で課題が出てきて、その課題に対して、解決するための策は当然のことであるが、やはり少子化というのが大きな問題だと思う。地域に関しても、老人クラブをやめてしまうところが増えてきたなどという地域課題も出てきているので、大きな問題は少子化であり、地方から国へ働きかけをしてもらえばと思っている。国より市、市よりも地域、地域より自治会、自治会よりも家庭など、大きなところを掘り下げていくという過程の中で地域をどう守っていくかという考え方は、昔は家族制度というのがあったが、そういった考え方も1つあるかと最近感じている。いずれ少子化問題は、大きな課題だと思う。

事務局 今、委員が話されたように、少子高齢化が今何をやるにしても大きな課題として立ちふさがっている中で、市としてどういったまちづくりができるのかが、本日お集まりいただいている社会教育委員の皆様も、それぞれの立場のところでやっていただいている。その中で、それぞれの地域でどういうふうに課題解決をするべきかということ、皆さん手探りでやっていただいていると思う。この会議の場で、地域でやっている情報を共有しながら、進めていければいいと思っている。貴重なご意見ありがとうございました。

- 11 スタンプラリーMAPについての説明について  
事務局から口頭にて説明を行った。質疑等なし。
- 12 担当 まちづくり推進部いきがづくり課